

<2023年度防災教育チャレンジプラン 活動報告会 実践活動発表資料>

コロナ禍後の持続的に発展可能な  
福祉避難所開設計画

東京都立調布特別支援学校

生活指導主任 常松 浩三郎

I 調布特別支援学校について

II 今年度のチャレンジについて

III まとめ——学校から地域へ



東京都立調布特別支援学校

# I 調布特別支援学校について

◎小学部と中学部の知的障害特別支援学校

◎1976年開校（通学区域：調布市・三鷹市・狛江市）

◎地域とのつながりが深い（リソース・ネット、防災協定）

◎スローガン「『地域』に生き、ともに伸びる学校」



東京都立調布特別支援学校

## Ⅱ 今年度のチャレンジについて

「時代の変化や災害の多様化に対応した、  
地域のニーズに応えられる福祉避難所の  
スマートでスムーズな開設の仕組みづくりをするプラン」

### 【内容】

- 1 地域と結びついた実践的な防災教育の取組
- 2 「福祉避難所開設マニュアル」の作成
- 3 命を守るのに役立つ最新の知見と資料の収集

## Ⅱ 今年度のチャレンジについて

### 【方策】

- 1 地域や外部とのつながりを深め、  
実践的でユニークな訓練等の防災の取組を行う
- 2 特別支援教育のノウハウや保護者目線に立った工夫を採り入れる
- 3 活動の幅を広げ、最新の知見を採り入れるとともに、  
担当者が代わっても受け継がれていく仕組みづくりをする

## Ⅱ 今年度のチャレンジについて

### 1 地域と結びついた実践的な防災教育の取組（1）

【2023年度】

4/5 応急救護訓練

4/17 シェイクアウト訓練

5/2 火災避難訓練

6/1 災害用伝言ダイヤル体験①

6/22 地震避難訓練

6/30～7/1 宿泊防災訓練

7/3 風水害避難訓練

8/8 要配慮者移送訓練・福祉避難所開設訓練

9/12 避難所運営講座

9/13 総合防災訓練

9/18 ぼうさいこくたい

10/24 異臭による二次避難訓練

11/1 災害用伝言ダイヤル体験②

11/24 地震の取組と起震車体験訓練

12/12 地震による放送不通避難訓練

1/15 火災の取組と煙体験訓練

2/1 災害用伝言ダイヤル体験③

2/5～2/9 抜き打ち地震避難訓練

3/6 抜き打ち地震・火災避難訓練

## Ⅱ 今年度のチャレンジについて

### 1 地域と結びついた実践的な防災教育の取組（2）

【中間報告会以降】

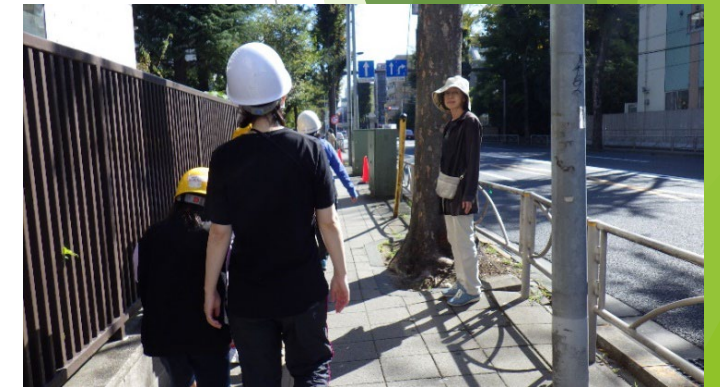
#### ◆異臭による二次避難訓練（2023年10月25日）

隣接するマンション（コスモ調布ヶ丘）との連携

- ◎ マンションで異臭発生、住人が学校に連絡
- ◎ 甲州街道側駐車場に一次避難 → 電気通信大学に二次避難
- ◎ マンション住人による児童生徒の見守り
- ◎ マンションの代表者に感謝状を贈呈



東京都立調布特別支援学校



## Ⅱ 今年度のチャレンジについて

### 1 地域と結びついた実践的な防災教育の取組（3）

【中間報告会以降】

#### ◆地震の取組と起震車体験訓練（2023年11月24日）

地元の企業（スターツCAM）との連携

#### ○（起震車体験の前に）シェイクアウト訓練

机がない場所：丸くなり首の後ろを両手で守る



◎スターツ所有の免震起震車を活用

◎児童生徒全員が阪神・淡路大震災の揺れを体験

◎外部の人（PTA、リソース・ネット、バス乗務員）は免震機能も体験





## Ⅱ 今年度のチャレンジについて

### 1 地域と結びついた実践的な防災教育の取組（3）

【中間報告会以降】

メディア（少年写真新聞社）との連携

○注目してくれた点

- ◎ 地元の企業とつながった訓練
- ◎ 日本初の免震起震車を使用
- ◎ 例外的に学校に貸し出した
- ◎ 阪神・淡路大震災の揺れを再現

1月に「みんなの安全ニュース」掲載  
(1.17に合わせて発行)



#### 起震車で兵庫県南部地震の揺れを体験 ～東京都立調布特別支援学校で防災訓練が行われました～

昨年11月、東京都立調布特別支援学校で防災訓練が行われ、児童生徒らが地震の揺れを再現できる起震車に乗って揺れを体験し、身を守るための対処の仕方を学びました。

この訓練は、同校がスターツCAM株式会社の地元の営業所と連携して、同社が所有している日本初の免震起震車を使って行われました。

今回は、1995年1月17日に発生した、兵庫県南部地震の直下型の揺れが再現されました。

児童生徒と教員が乗り込み、最大震度7の揺れを体験しました。ゴーという音とともに、強い揺れが発生し、子どもたちは、机の下にもぐって、頭を低くしたり、抱えたりして身を守っていました。



最大震度7の揺れを体験する児童と教員

参加後、進行の教員から、「本当に地震が来ると、部屋も机も椅子も揺れるので、“頭を守る”ことが大切です。それを忘れずに、これからも防災訓練を頑張ってください」と話がありました。また、起震車の担当者は、「本番でも今日と同じように頭を守ってほしい」と話していました。

東京都立調布特別支援学校

## Ⅱ 今年度のチャレンジについて

### 1 地域と結びついた実践的な防災教育の取組（４）

【中間報告会以降】

#### ◆地震による放送不通避難訓練（2023年12月12日）

地域の放送局（JCOM）との連携 1月に「ジモトトピックス」で放送

#### ○地震が収まった後、放送できなくなる

- ◎本部参集者から2人 → トランシーバーを持って学年主任に配布
- ◎学年主任はトランシーバーで児童生徒の状況を本部に伝達
- ◎本部参集者から5人 → 校舎の安全確認
- ◎本部からトランシーバーで学年主任に避難指示



## Ⅱ 今年度のチャレンジについて

### 1 地域と結びついた実践的な防災教育の取組（４）

【中間報告会以降】

#### ◆火災の取組と煙体験訓練（2024年1月15日）

地元の消防署（調布消防署）との連携

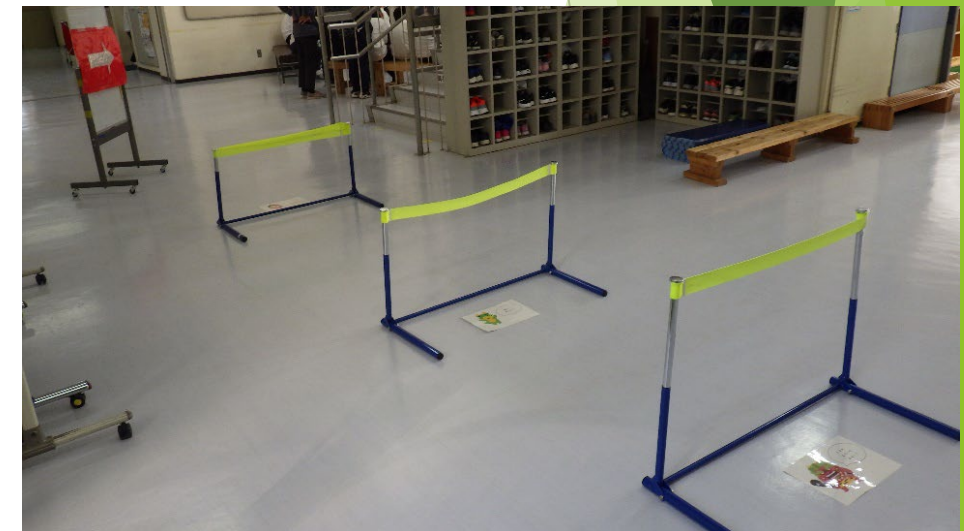
#### ○（煙体験の前に）姿勢を低くする取組

だんだん低くなる三つのハードルとユニークなイラスト

◎第一のハードル：怖そうな鬼「ここをくぐってみよ!!」

◎第二のハードル：優しくそうな龍「あとすこし!!」

◎第三のハードル：笑顔の女の先生「よくできました!!」



東京都立調布特別支援学校

## Ⅱ 今年度のチャレンジについて

### 1 地域と結びついた実践的な防災教育の取組——成果

- 地域や外部と連携して行い、結びつきを強めた
- 新たな連携先を見つけ、次につながる連携先を増やした
- 地震や火災だけでなく、風水害、異臭、放送不通等の訓練を行った
- 災害時に活かすことのできるような実践的な内容にした

## Ⅱ 今年度のチャレンジについて

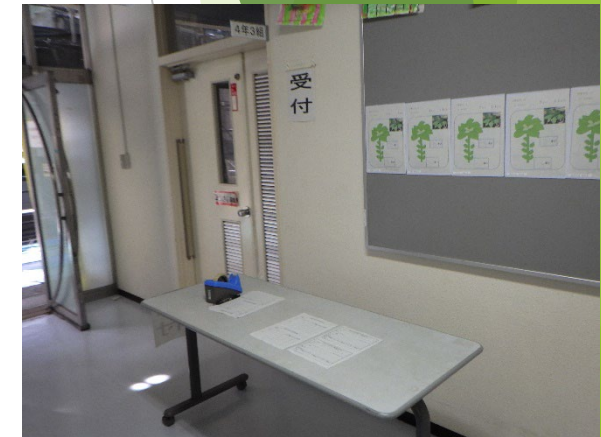
### 2 「福祉避難所開設マニュアル」の作成（1）

#### ◆ 「持続的に発展可能な福祉避難所開設マニュアル」の構成

- ・ 第1章 平常時における取組
- ・ 第2章 災害時における取組
- ・ 第3章 避難者が安心できる工夫
- ・ 様式集

○他の団体が活用できるようなものにする（福祉避難所を考えている施設等）

◎必要最小限のコンパクトなマニュアル



## Ⅱ 今年度のチャレンジについて

### 2 「福祉避難所開設マニュアル」の作成（2）

#### ◆ 「持続的に発展可能な福祉避難所開設マニュアル」の工夫

##### ○ 障害のある人が安心して過ごせるような対応を盛り込む

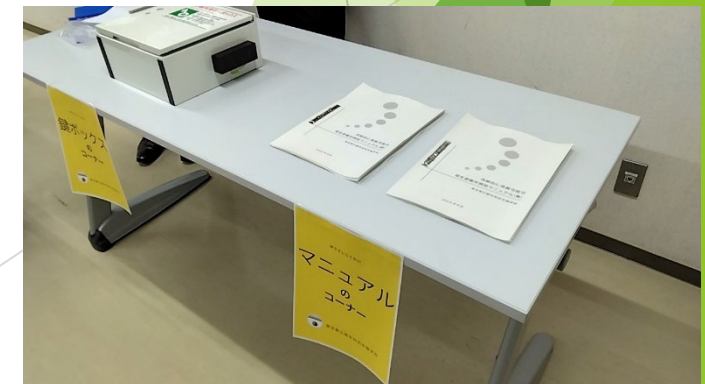
（してほしいこと、してほしくないこと、実際に有効だったこと 等）

◎ 特別支援教育のノウハウを取り入れた

◎ ぼうさいこくたいでマニュアル案を提示し、来場者にアンケート

◎ 東京都の全特別支援学校のPTAにアンケート

◎ アンケートの結果をPTAにフィードバック



## Ⅱ 今年度のチャレンジについて

### 2 「福祉避難所開設マニュアルの作成」——成果

- 障害のある人が安心できるような対応を盛り込んだ
- 他の団体が活用できるようにコンパクトな形にした
- マニュアルを完成させ、今後膨らませられるようになった

## Ⅱ 今年度のチャレンジについて

### 3 命を守るのに役立つ最新の知見の収集（1）

#### ◆地震時の安全確保行動——机があるとき

◎机の下に机の前方からもぐる

◎机の脚のシールで印をつけた箇所を両手で押さえる

◎揺れがやむまでじっとしている





## Ⅱ 今年度のチャレンジについて

### 3 命を守るのに役立つ最新の知見の収集（2）

#### ◆地震時の安全確保行動——机がないとき

◎しゃがんで「カメのポーズ」で丸くなる

◎首の後ろを両手で守る

◎揺れがやむまでじっとしている



## Ⅱ 今年度のチャレンジについて

### 3 命を守るのに役立つ最新の知見の収集（3）

#### ◆地震時の安全確保行動——オリジナルの「じしんのうた」

1 じしん ゆれたら すぐ  
つくえ もぐるよ すぐ  
あたま まもるよ すぐ  
あしを おさえて すぐ  
ゆれが やむまで がまん  
じっと してるよ

2 つくえ ないなら すぐ  
カメの ポーズで すぐ  
くびを まもるよ すぐ  
りょうて かぶせて すぐ  
ゆれが やむまで がまん  
じっと してるよ いいね

## Ⅱ 今年度のチャレンジについて

### 3 命を守るのに役立つ最新の知見の収集——成果

- 緊急地震速報が流れると、児童生徒が自発的に動くようになった
- 机の下にもぐり、机の脚の目印を両手で押さえるようになった
- 机がないところでは、しゃがんで丸くなるようになってきた  
首の後ろを両手で守る児童生徒も出てきた  
→「じしんのうた」で更なる定着を図りたい

### Ⅲ まとめ——学校から地域へ

#### ◆要配慮者移送訓練・福祉避難所開設訓練での体験（2023年8月8日）

##### ○訓練の振り返り（本校プレイルーム）

◎あまりよく知らない人たちが集まり、顔を合わせて意見交換

◎立場の違う者同士が率直な意見や感想を述べた

◎次へとつながる意識の醸成と関係の強化が図れた



### Ⅲ まとめ——学校から地域へ

#### ◆ぼうさいこくたいでの体験（2023年9月18日）

##### ○ワークショップ（横浜国立大学 教育文化ホール）

テーマ「障害のある人と家族が安心できる福祉避難所の実現を目指して」

- ◎集まった人がそれぞれ持てる力を発揮し、臨機応変に対応
- ◎立場の違いを超えてスクラムを組み、力を結集して乗り切った
- ◎手応えを感じ、「学校から地域へ」と意識の変革が起きた

東京都立調布特別支援学校



### Ⅲ まとめ——学校から地域へ

#### ◆新たなチャレンジ 「ちょうふ防災スクラム」

○地域の二つの団体が（リソース・ネット、ちょうふ災害福祉ネットワーク）  
学校主導の2年間の防災教育のチャレンジを継承・発展

◎フェーズフリーの防災教育の展開

◎災害時のスマートでスムーズな福祉避難所の開設

◎立場を超えた地域ネットワークの強化

災害にしなやかに対応できるように  
理想を描き 現実との落差を埋めていく



東京都立調布特別支援学校